研究・調査報告書

報告書番号	担当
57	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Interaction between tobacco and alcohol use and the risk of head and neck cancer: pooled analysis in the International Head and Neck Cancer Epidemiology Consortium.
飲酒と喫煙、頭頸部癌の関係性について：非営利団体の国際的な頭頸部癌の疫学分析より

執筆者

Hashibe M, Brennan P, Chuang SC, Boccia S, Castellsague X, Chen C, Curado MP, Dal Maso L, Daudt AW, Fabianova E, Fernandez L, Wunsch-Filho V, Franceschi S, Hayes RB, Herrero R, Kelsey K, Koifman S, La Vecchia C, Lazarus P, Levi F, Lence JJ, Mates D, Matos E, Menezes A, McClean MD, Muscat J, Eluf-Neto J, Olshan AF, Purdue M, Rudnai P, Schwartz SM, Smith E, Sturgis EM, Szeszenia-Dabrowska N, Talamini R, Wei Q, Winn DM, Shangina O, Pilarska A, Zhang ZF, Ferro G, Berthiller J, Boffetta P.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2009 Feb;18(2):541-50. Epub 2009 Feb 3.

キーワード

頭頸部癌、喫煙、飲酒

要　旨

背景：
少なくとも 75%の頭頸部癌が喫煙と飲酒の併用によって発生すると言われている。非存在下で各々のリスクは独立したものとして理解されていた頭頸部癌は、その発癌と機序を明確にする事と、どちらか一方の危険因子をコントロールし、介入の効果を調べる必要がある。

方法：
我々は飲酒をしない喫煙者と、喫煙をしない飲酒者との頭頸部癌との関連について調査した。我々は、10,244 の頭頸部癌のケースと 15,277 のコントロール群（その 1,072 のケースと 5,775 の対象は非喫煙者で、1,598 のケースと 4,051 の対象は非飲酒者）を含む 15 のケースコントロールより個々のレベルを用いて調査した。オッズ比(ORs)と 95%信頼区間(CIs)はロジスティック回帰分析により算出された。統計は両側検定で行われた。

結果：
飲酒をしない喫煙者は、頭頸部癌のリスクを上昇させ（オッズ比は非喫煙者より 2.13、95%CI = 1.52 から 2.98）、頻度、期間、喫煙歴と関連している事が明確となった。この研究では、非飲酒者の頭頸部癌は約 24%(95% CI = 16%から 31%)が、個々が喫煙をしていなければ癌に発症を避ける事が出来たのではないかと考えられる。非喫煙者では、飲酒が過度（オッズ比は 1 日辺りの飲酒が 3 杯以上になった際、非飲酒と比較して 2.04、95% CI = 1.29 から 3.21）になった際には頭頸部癌のリスクを上昇させることが分かった。過度の飲酒との関連は中咽頭、下咽頭の咽頭癌に限られていた。

まとめ：
この結果は、2 つの主な危険因子の各々独立した関係と最も正確な予測を付けるのに、有用であり、また頭頸部癌は、癌疫学において大規模な非営利団体の重要性を示した。